



浪江町長
馬場 有

避難先での3度目のお正月を迎えました。1,000日を超えて慣れ親しんだ土地を離れ、町民の皆様は心労をおかけし続けていることを思うと、胸が詰まります。年頭に当たり、この過酷な避難生活から、一刻も早く安心できる生活を取り戻さなければならぬ、思いを新たにしております。

町の復興計画では、震災から3年となる平成26年3月31日までを「緊急復旧期」と位置づけて、避難先での生活の改善などに取り組んでまいりました。すべて計画通りに進んでいるというわけではありませんが、わずかに復興への歯車動き出したように思います。今年度は、復興計画に定める「中期―復旧実現期」の初年度となり、本年の目標は「浪江町民一人ひとりの選択を可能とするために、復興の動きを見える形にする」こととあります。

昨年は、町民の皆様のご協力のもと、復旧の大前提となる本格除染が始まったところです。当初の計画からは遅れ

てまいりましたが、道路や水道などの復旧工事と連携し除染を進め、当初の目標である平成29年3月の帰還開始を目指し取り組んでまいります。

町としては、引き続き町内全域の除染を念頭に、森林や河川も含めたより効果的な除染の実施を求めてまいります。

賠償については、国の原子力損害賠償紛争審査会から中間指針の第4次追補がまとめられ住宅確保に係る損害などについて示されました。これは、私たちの生活再建になくてはならないもので、町としても訴え続けてきたものですが、まだまだ満足できるものではありません。また、指針全体として、区域によって差が大きくなる部分があり、町民の分断を招くおそれがあります。町としてはこれまでどおり、区域の別に関わらず、一律の賠償および精神的損害の増額を強く求めてまいりたいと考えております。

また、生活の再建について、住環境を改善するため、復興

公営住宅の整備が急務となっております。現在、必要戸数の確保に向け、避難先自治体・県とともに用地の選定を進めており、町外コミュニティの整備を予定している南相馬市、いわき市、二本松市、協定に基づき町営での住宅を整備する桑折町のほか、本宮市からも市営での整備の打診があり、協議しているところです。町としても応急仮設住宅の一刻も早い解消に向け、国県への働きかけを強めてまいります。

いづれにしても、本年は生活再建、町外コミュニティ、除染やインフラ復旧、生活支援の今後の展望を見える形になります。

結びになりますが、寒さが一段と厳しくなってきた折体調管理にご留意され、今年一年皆様笑顔で過ごせるよう心よりお祈り申し上げ新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶



浪江町議会議員
小黒 敬三

あえて、新年おめでとうございませぬ。

「あえて」という言葉をあえて付けさせていただいたのは、発災後、故郷を離れて3度目の新春を迎え心の状態も心配されるからです。故郷の復興と一人ひとりの生活再建がようやく入口にさしかかりましたが、もう少し時間がかかりそうです。行政、議会、復興計画策定委員会、行政区長会、自治会、NPOや町民の自主的な組織が協力してやるべき事は粛々と進め、同時に町民一人ひとりが自ら身体と心の健康に努力することもこれからの重要な課題になって来ると考えます。

議会では1月1日同時発行の「浪江町議会報告10号」および、前回9号、11月1日発行の「議会だより」でもお知らせ致しましたが、町民との意見交換会を県内12カ所、県外6カ所において開催し494名の参加をいただきました。そして、皆様からいただいた意見を要望書にとりまとめ、10月8日に全議員16人で関係省庁へ提出いたしました。今回の要望活動については、皆様から「要望活

動だけでなく結果を出せるよう、それらをしっかりと報告すること」と求められており、10月31日まで回答をいただくよう期日を区切って要望してまいりました。11月16日には、自由民主党東日本大震災復興加速化本部、大島理森本部長はじめ各政党へも働きかけを行ったところです。一部回答があったものに関しては議会報告10号に記載されておりますのでご参照下さい。

また、今後の町民との意見交換会については、仮設、借上げ住宅の自治会や団体ごとに要望があれば日程や場所など互いに打ち合わせをしながら進めてまいりたいと考えておりますので、多数の参加をお願い申し上げます。

町民の代表と有識者で構成される「復興計画策定委員会」から説明のあった復興まちづくり計画の中間とりまとめについて、議会としてもしっかりと精査し、議会の考えも示し、責任を持ってまいります。

考察1 発災前、町の定義は線引きされた土地を媒体とした文化や習慣を同じくする協同体でした。復興計画の中に

「どこに住んでも浪江町民」という考え方があり、まさに住んでいる所にとらわれないバーチャル自治体が求められます。町民の声に、伝統芸能保存会や、浪江焼きそば、十日市など参加できなくてもマスコミ等でその活動を知るだけでも励みになる。浪江町とつながっている気がする話がある。話がありました。場にとられないまちづくりも考えられます。

考察2 目標が大きいと、目の前の具体策が見えなくなってしまうという性質があります。私たちが直面する復興も目標が大きすぎます。不安や過ちを少なくするためには、時間を区切って消化できる単位まで分けるべきではないでしょうか。4年を1年に、1年を1日に、1日を今にすれば、今は自分次第で何とか乗り越えられます。そうすれば・・・

考え方や気持ちで負けないようにしたいですね。

本年が少しでも目に見える形で復興が進むことを祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

今月の表紙

「餅つき」
北幹線第一仮設住宅
自治会主催
12月1日、北幹線第一仮設住宅集会所でコスモス会による「餅つき」が行われ、寒空の中、出来立ての餅を手にした同仮設住宅の皆さんは、迎える新年への気持ちを新たにしました。

「みんなで活動するのが楽しみ」
北幹線第一仮設住宅
コスモス会
会長 鎌田 豊美さん
コスモス会は仮設住宅の女性たちで活動しており、普段は手芸などの活動を月2回集会所で行っています。コスモス会のみんでワイワイ話しながら活動するのが楽しく、ストレス発散にもなっています。毎年恒例にしている餅つきは、前日から下ごしらえをして準備しました。仮設住宅にはご老人の方が多いので、皆さん毎年楽しみにしてくれています。来年もまた、みんなで楽しく活動をしていきたいと思っております。



- 浪江町議会議員
- 泉田 重章
 - 紺野 榮重
 - 佐々木 恵寿
 - 佐々木 勇治
 - 佐藤 文子
 - 三瓶 宝次
 - 鈴木 幸治
 - 馬場 佳績
 - 平本 佳司
 - 松田 孝司
 - 山崎 博文
 - 山本 幸一郎
 - 吉田 数博
 - 若月 芳則
 - 渡邊 泰彦